

地方 紀民 行鉄

ひたちなか海浜鉄道株式会社



「ほしいも王国」が
描かれた列車が

さつまいも畑をひた走る。

専門店から神社まで

約14キロの沿線には、

ほしいも愛が溢れてる。

「横から見ると、ただの丘にしか見えない」。ひたちなか海浜鉄道、中根駅から歩くこと約20分。国の史跡に指定されている前方後円墳、虎塚古墳を前に独りごちる。

一般公開は年2回のみ

ひたちなか海浜鉄道に乗りに行くなら、絶対に行こうと決めていた虎塚古墳。幾何学模様が描かれた壁に朱色に塗られた天井が特徴的な石室があつて……とにかく一度見てみたかった、レプリカでも！ というのも、本物の石室に入れるのは春と秋の年2回、一般公開の時だけ。代わりに古墳近くの「ひたちなか市埋蔵文化財調査センター」で石室内部の実物大レプリカが見られる。

センターに行く前に、せっかくなので外側だけでも本物をと、古墳の方に来てみたけれど、どう見ても、低めの丘が二つ連なっているようにしか見えない。周囲に高い建物でもあれば、前方後円墳の全景が見られたかもしれないけれど、仕方がない。早々にセンターに向かう。

土足禁止のセンター入り口には、ずらりと小さな靴が並ぶ。校外学習の小学生たちが来館中らしい。レプリカのある常設展示室の入り口で小学生集団と鉢合わせ。レプリカ前は混雑するかと思ったら、「おにぎり、どこだ」と言いながら、何かを探し回っている。「おにぎり？」と思いつつ、空いているレプリカ前で、じっくり見学。予想以上に狭い石室は、想像以上に鮮やかな朱色で彩られてい

る。千年以上前に造られた建造物の色が、本当にこれほど残っているのか、やっぱり実物で確かめたい。そんなことを考えていると、背後に小学生たちが近づいてくる気配。大人らしく、場所を譲ってそのまま展示室を出る。急がないと次の列車に間に合わない。小走りの中根駅に戻る。

ちなみに小学生たちが探していた「おにぎり」とは、平安時代の居住跡から出土した「炭化したおにぎり」のことだと思われる。

酒列磯前神社で金運祈願

次の目的地は「酒列磯前神社」。これは、「せけれつ」でも「さかれつ」でもなく「さかつら」と読むのが正しい。一度聞いただけでは忘れてしまいそうな難しい読み方をするこの神社は金運アップのご利益で有名。境内には宝くじの高額当選者が奉納した亀の石像もあり、触るとご利益があるとか。宝くじを買うことはほとんどないのだけれど、ここはお参りしておかなくては。

酒列磯前神社の最寄り駅は中根駅から6駅目、終点・阿字ヶ浦駅の一つ手前の磯崎駅。無人の磯崎駅舎を出て、観光案内板を頼りに酒列磯前神社を目指す。ひたちなか市内にある観光案内板は、その場所ゆかりの物を文字に組み込んで出来ている。酒列磯前神社の場合、亀や酒樽、瓢箪の徳利などが組み込まれている。ひたちなか海浜鉄道の駅名標も同じデザインで大層かわいい。

さて、ふんわりと潮の香りがする住宅地を抜けると、大きな白い鳥居が目に見え込んで



虎塚古墳と石室のレプリカ(左)

ひたちなか海浜鉄道

【ひたちなかかいひんでつどう】

勝田駅から阿字ヶ浦駅まで、14.3kmを約28分で結ぶ。阿字ヶ浦駅から観光名所「ひたちなか海浜公園」のある海浜公園西口前までの延伸計画がある。





石造りの大きな鳥居。この先に長い参道（右）がある



酒列磯前神社の参道は木のトンネルのように長い



ひたちなか海浜鉄道の駅名標はひたちなか市内の観光案内版と同じデザイン

くる。鳥居の先には長い長い参道。うねりのある枝ぶりの木々に覆われた参道は、別の世界につながるトンネルのような不思議な雰囲気。参道の途中には横道があり、のぞき込むと、小さめの鳥居があって、その向こうには海が。これほど海の近くにきていたとは思わなかった、そういえば潮の香りも強くなっている。鳥居と海の組み合わせは実に絵になる。撮影スポットらしく、平日なのに順番待ちまでできている。撮影する人々を横目に参道を進む。

くだんの亀がいるのは拝殿の少し手前。まずは拝殿で参拝を済ませてから、亀の下に戻って頭をひとなで。金運はアップするだろうか。宝くじ、買ってみようか……。

古墳がここにも……

酒列磯前神社からは終点の阿字ヶ浦駅まで徒歩で行けそうなので、再び観光案内板を頼りに歩き出す。旅館や民宿が点在する道を歩いていくと、「川子塚(かわこづか)前方後円墳」とすぐ左を指す表示が目に入り、慌てて左を見る。

雑草が生い茂る空き地の奥に、こんもりとした雑木林。古墳を説明する看板が立っていない。住宅が点在する中に無造作に出没するこちらの古墳は、周辺が史跡公園になっている虎塚古墳以上に分かりにくい。うっかり登ってしまったりしないか、心配になる。

川子塚前方後円墳を通り過ぎると。阿字ヶ浦駅はすぐそこ。そして、駅のちよっと手前

には、ほしいも神社が鎮座する。

ほしいものは干し芋

実は、始発・勝田駅に停車中の列車を見た時から、頭の中には「干し芋」の3文字が刷り込まれていた。「HOSHIMO KINGDOM (ほしいも王国)」の文字とマスケットキャラクターが描かれた車体。車内広告の代わりに「ほしいもの歴史」や「ほしいもの品種」の説明が貼られ、吊革には干し芋のオブジェ。列車全体で干し芋を推しているのだから、刷り込まれもする。

そんな状態でたどり着いたのが、欲しいものは総て手に入るといふご利益がある「ほしいも神社」だ。「ほしいものを思い浮かべながら参拝してください」との表示を「干し芋を思い浮かべながら参拝してください」だと思ひ込み、疑いもなく「干し芋」を思いながら参拝してしまったのも無理もない。ひとまず今日欲しいものは「干し芋」に決定。

干し芋、干し芋と考えていたら、阿字ヶ浦駅の前に「ほしいも」の看板を発見。ただ、営業は冬季限定とある。暑さ厳しい今の時期(7月取材)は干し芋のシーズンではない。でも大丈夫。那珂湊駅の近くに干し芋の専門店があると聞いていたことを思い出す。欲しいものは全て手に入る「ほしいも神社」でお願いしたのだから、入手できないはずがない。ホームには「HOSHIMO KINGDOM」が停車中。それでは、ほしいも王国に乗って干し芋を買いに出発！



さつまいも畑を走る「HOSHIMO KINGDOM」のペイント列車。車内は干し芋一色



黄金色の鳥居が連なるほしいも神社



雑木林のような川子塚前方後円墳